

VI- II

死亡の推移-心疾患

1 心疾患死亡（総数）の推移

岩手県の心疾患による死亡数は、がんについて死因の第2位となっている。

最新年では、2,957人が心疾患で死亡しているが、内訳としては、男性が1,389人、女性が1,568人で、女性が170人程度多くなっている。

岩手県心疾患死亡数最新値（H28年）2,957人
 内訳 男性：1,389人
 女性：1,568人

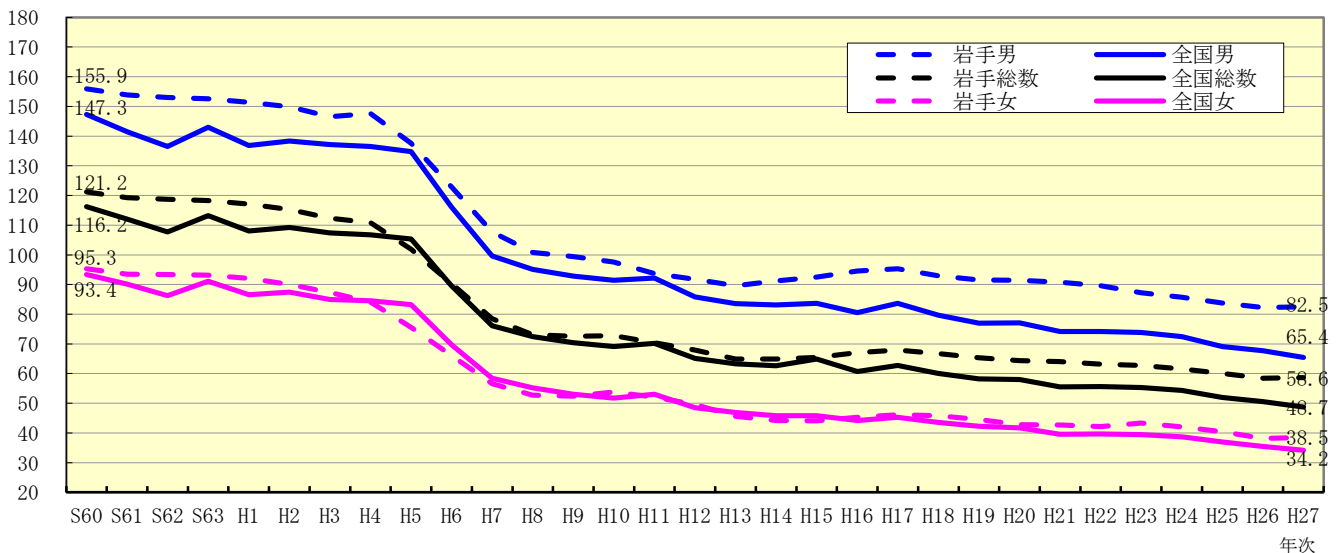
昭和60年から平成27年までの全国及び岩手県の心疾患の年齢調整死亡率の推移を示す(図107)。

心疾患は、心疾患診断基準の見直しのため、平成7年前後に大きく減少しているが、その後も緩やかに減少を続けている。

男女別では、最新値で、男性が女性のほぼ倍の値となっており、近年、男女ともに全国を上回って推移している。

率（人口10万対）

図107 心疾患の年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）の推移

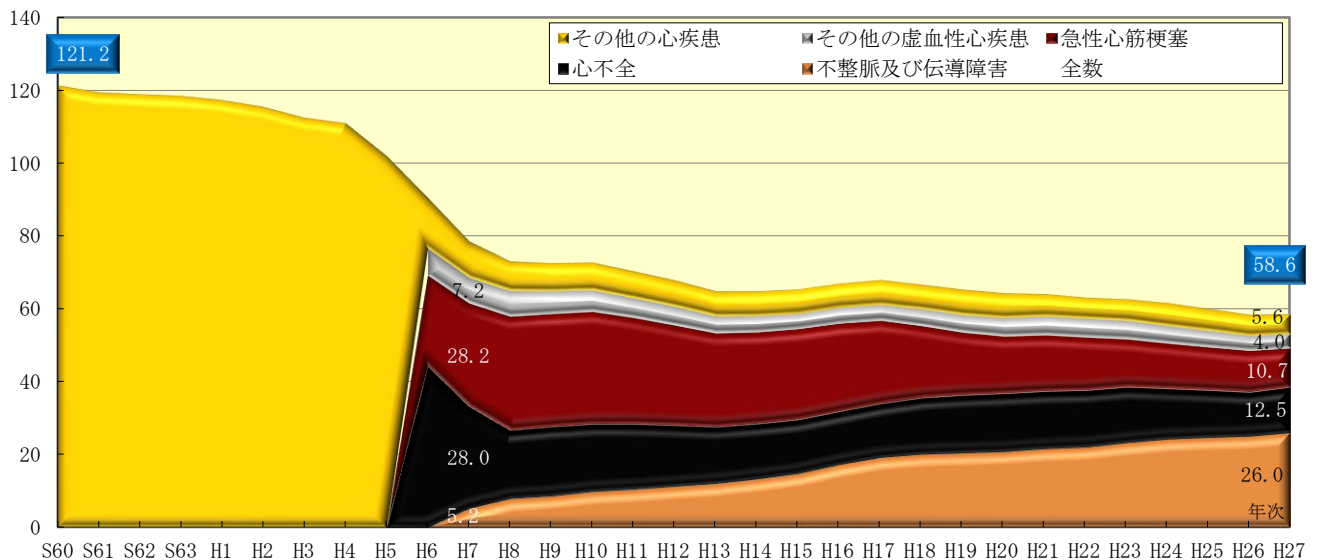


※平成7年前後の減少は心疾患診断基準の見直しのためと思われる

心疾患は、これまで、急性心筋梗塞、その他の虚血性心疾患、心不全及びその他の心疾患に大別していたが、近年、不整脈及び伝導障害が大きく増加していることから、これを加えた5区分による昭和60年（3年分）から最新年（3年分）までの岩手県の心疾患の種類別年齢調整死亡率の推移を示す(図108)。

率（人口10万対）

図108 種類別心疾患年齢調整死亡率（3年分）年次推移（岩手県-総数）



※岩手県の急性心筋梗塞、心不全、その他の虚血性心疾患は平成5年からのデータのため、3年分を平均すると平成6年からの表記となる
 ※岩手県の不整脈及び伝導障害は平成6年からのデータのため、3年分を平均すると平成6年からの表記となる

さらに、最新年の種類別の心疾患年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表44）。

1位は不整脈、2位は心不全、3位は急性心筋梗塞、4位がその他の虚血性心疾患で全国とは順位が大きく異なっている。不整脈は全国の3倍強の高さとなっている一方、心不全及び急性心筋梗塞は1割程度、その他の虚血性心疾患は6割程度、全国より低い状況となっている。

表44 平成27年（岩手県のみ3年分）種類別心疾患年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	4位	その他の心疾患
全国	心不全 (14.4)	急性心筋梗塞 (10.8)	その他の 虚血性心疾患 (10.0)	不整脈及び 伝導障害 (7.8)	5.8
岩手	不整脈及び 伝導障害 (26.0)	心不全 (12.5)	急性心筋梗塞 (10.7)	その他の 虚血性心疾患 (4.0)	5.6
全国との差	18.2	-1.9	-1.0	-6.0	-0.2

次に、心疾患の増減を見るため、岩手県の種類別の平成18年（3年分）の年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年（3年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4区分別に示す（表45）。なお、4区分に該当していない部位はほぼ横ばいと捉えることができる。

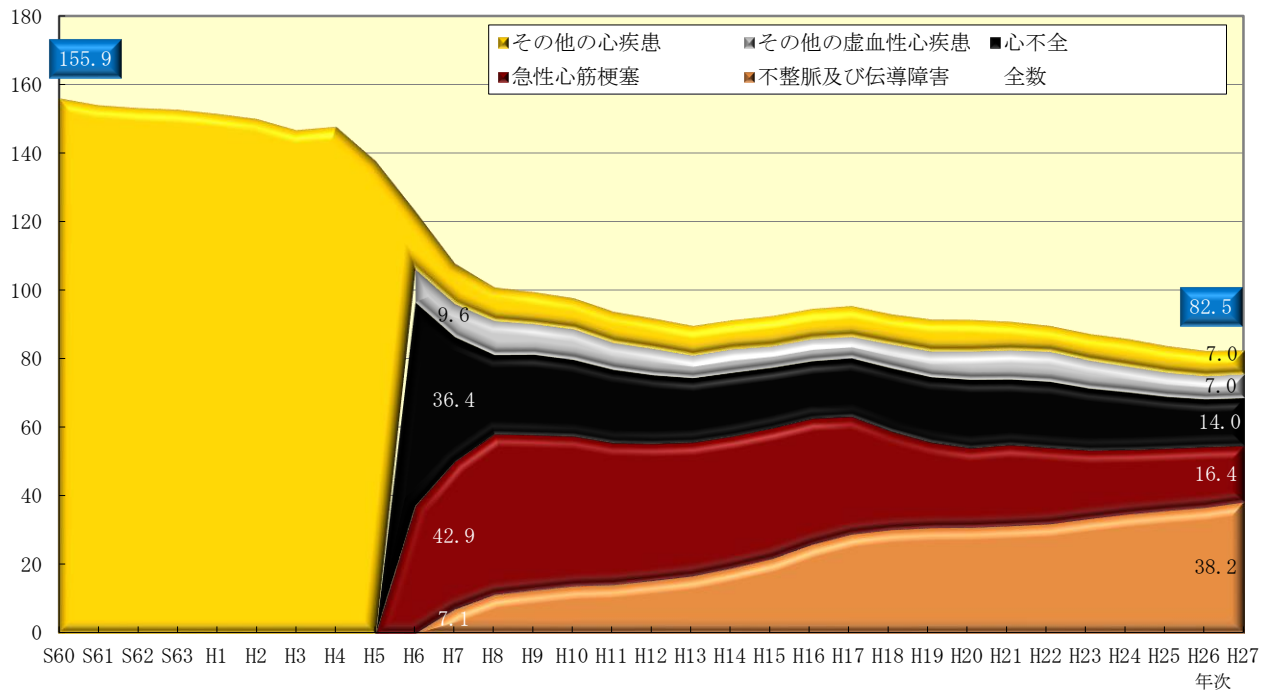
この10年余りで大きく増加しているのは不整脈及び伝導障害、大きく減少しているのは急性心筋梗塞となっている。

表 45 種類別心疾患－平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年年齢調整死亡率の割合

区 分	該当する種類別心疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	不整脈及び伝導障害（129.8%）
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	その他の虚血性心疾患（83.4%）、心不全（80.5%）
大きく減少（80%未満）	急性心筋梗塞（54.3%）

同じく、昭和 60 年（3 年分）から最新年（3 年分）までの岩手県**男性**の心疾患の種類別年齢調整死亡率の推移を示す（図 109）。

率（人口10万対） 図109 種類別心疾患年齢調整死亡率（3年分）年次推移（岩手県-男性）



※岩手県の急性心筋梗塞、心不全、その他の虚血性心疾患は平成5年からのデータのため、3年分を平均すると平成6年からの表記となる
 ※岩手県の不整脈及び伝導障害は平成6年からのデータのため、3年分を平均すると平成6年からの表記となる

最新年の**男性**の種類別の心疾患年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表 46）。

1位は不整脈、2位は急性心筋梗塞、3位は心不全、4位がその他の虚血性心疾患で、やはり全国とは順位が大きく異なっている。不整脈は全国の4倍弱の高さとなっている一方、心不全は全国より1割程度低く、その他の虚血性心疾患は全国の半分以上となっている。

表 46 男性の平成 27 年（岩手県のみ 3 年分）種類別心疾患年齢調整死亡率高率順位（人口 10 万対）

高率順	1 位	2 位	3 位	4 位	その他の心疾患
全国	心不全 (16.5)	急性心筋梗塞 (16.2)	その他の 虚血性心疾患 (15.1)	不整脈及び 伝導障害 (10.6)	7.0
岩手	不整脈及び 伝導障害 (38.2)	急性心筋梗塞 (16.4)	心不全 (14.0)	その他の 虚血性心疾患 (7.0)	7.0
全国との差	27.6	0.2	-2.5	-8.1	0

次に、岩手県**男性**の種類別の平成 18 年（3 年分）の年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年（3 年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4 区分別に示す（表 47）。

この 10 年余りで大きく増加しているのは不整脈及び伝導障害、大きく減少しているのは心不全及び急性心筋梗塞となっている。

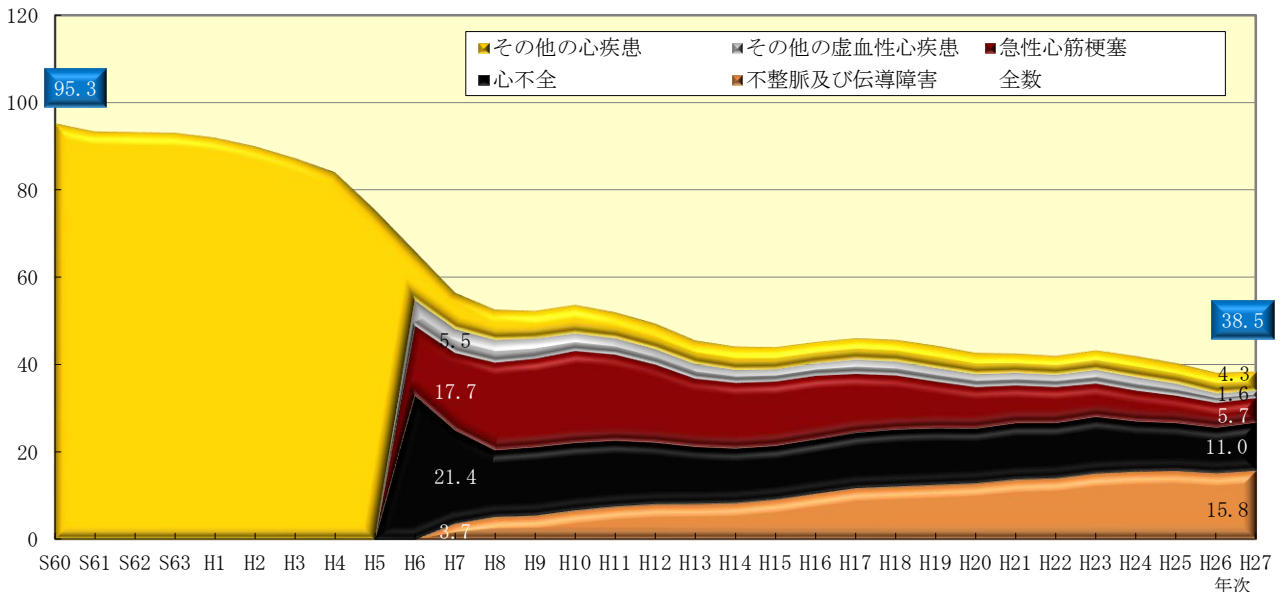
表 47 男性の種類別心疾患—平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年年齢調整死亡率の割合

区 分	該当する種類別心疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	不整脈及び伝導障害（126.8%）
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	—
大きく減少（80%未満）	心不全（75.4%）、急性心筋梗塞（57.2%）

同じく、昭和 60 年（3 年分）から最新年（3 年分）までの岩手県**女性**の心疾患の種類別年齢調整死亡率の推移を示す（図 110）。

率（人口10万対）

図110 種類別心疾患年齢調整死亡率（3年分）年次推移（岩手県-女性）



※岩手県の急性心筋梗塞、心不全、その他の虚血性心疾患は平成5年からのデータのため、3年分を平均すると平成6年からの表記となる
 ※岩手県の不整脈及び伝導障害は平成6年からのデータのため、3年分を平均すると平成6年からの表記となる

次に、最新年の**女性**の種類別の心疾患の年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表48）。

1位は不整脈、2位は心不全、3位は急性心筋梗塞、4位がその他の虚血性心疾患で、やはり全国とは順位が大きく異なっている。不整脈は全国の3倍弱の高さとなっている一方、心不全は1割程度全国より低く、その他の虚血性心疾患は全国の1/3程度となっている。

表48 女性の平成27年（岩手県のみ3年分）種類別心疾患年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	4位	その他の心疾患
全国	心不全 (12.4)	急性心筋梗塞 (6.1)	その他の 虚血性心疾患 (5.6)	不整脈及び 伝導障害 (5.4)	4.6
岩手	不整脈及び 伝導障害 (15.8)	心不全 (11.0)	急性心筋梗塞 (5.7)	その他の 虚血性心疾患 (1.6)	4.3
全国との差	10.4	-1.4	-0.4	-4.0	-0.3

岩手県**女性**の種類別の平成18年（3年分）の年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年（3年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4区分別に示す（表49）。

この10年余りで大きく増加しているのは不整脈及び伝導障害、大きく減少しているのはその他の虚血性心疾患及び急性心筋梗塞となっている。

表49 女性の種類別心疾患－平成18年年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年年齢調整死亡率の割合

区 分	該当する種類別心疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	不整脈及び伝導障害（129.7%）
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	心不全（84.8%）
大きく減少（80%未満）	その他の虚血性心疾患（50.3%）、急性心筋梗塞（45.9%）

2 心疾患死亡（65歳未満）の推移

昭和60年から平成27年までの全国及び岩手県の心疾患の65歳未満年齢調整死亡率の推移を示す（図111）。

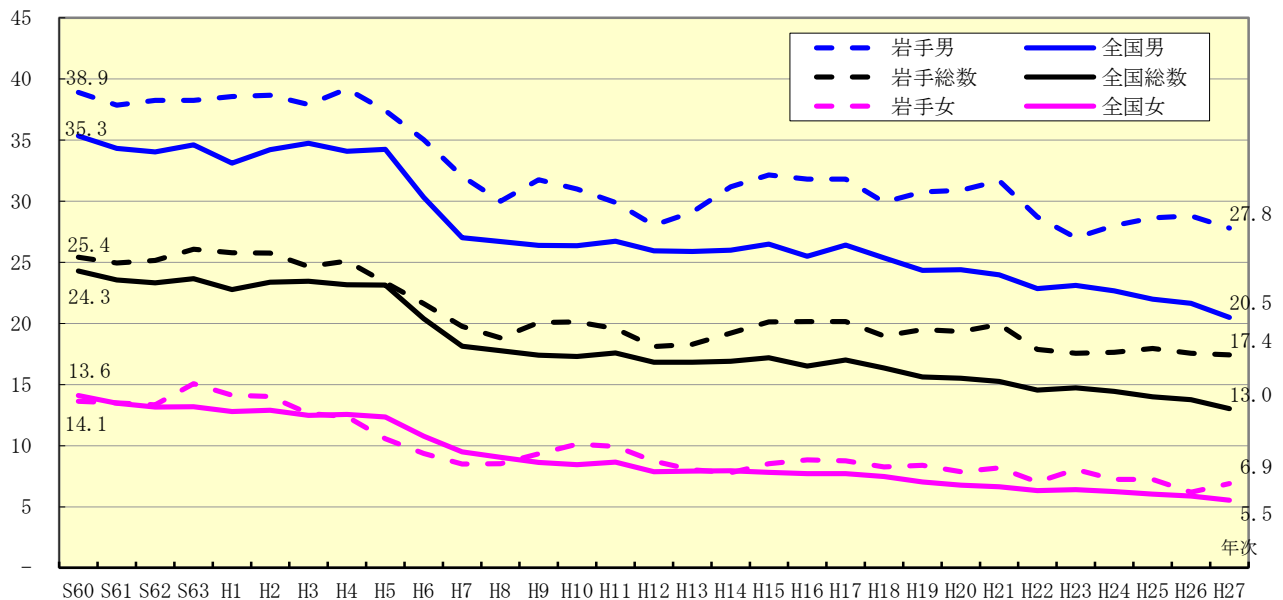
65歳未満の年齢調整死亡率では、全国は緩やかながら減少しているものの、岩手県は、男性がほぼ横ばいとなっている。

男女別では、最新値で、男性が女性の約3倍となっている。

全国との比較では、ほとんどの年次で、男女ともに全国を上回って推移しており、特に男性で全国との乖離が広がっている。

率（人口10万対）

図111 65歳未満心疾患の年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）の推移



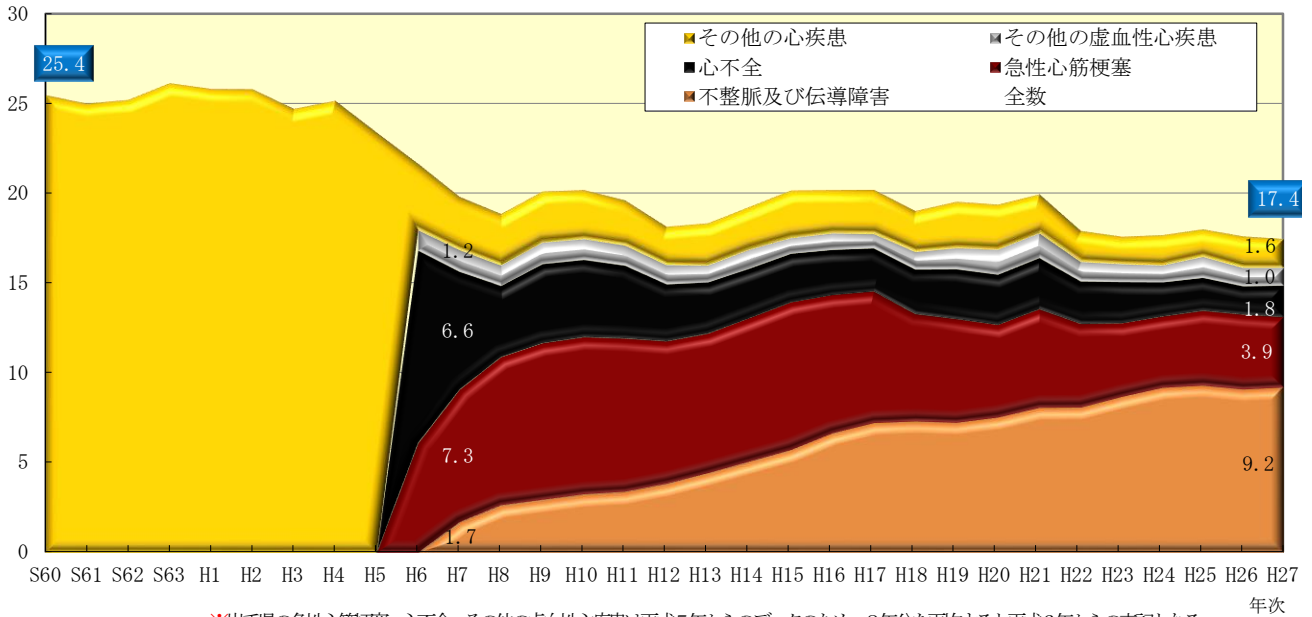
※平成7年前後の減少は心疾患診断基準の見直しのためと思われる

昭和60年（3年分）から最新年（3年分）までの岩手県の65歳未満の心疾患の種類別年齢調整死亡率の推移を示す（図112）。

さらに、最新年の65歳未満の心疾患の種類別年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表50）。

1位は不整脈、2位は急性心筋梗塞、3位は心不全、4位がその他の虚血性心疾患で全国とは順位が大きく異なっている。不整脈は全国の3倍弱の高さとなっている一方、心不全及び1割程度全国より低く、その他の虚血性心疾患は全国の1/3程度となっている。

率（人口10万対） 図112 65歳未満種別心疾患年齢調整死亡率（3年分）年次推移（岩手県-総数）



※岩手県の急性心筋梗塞、心不全、その他の虚血性心疾患は平成5年からのデータのため、3年分を平均すると平成6年からの表記となる
 ※岩手県の不整脈及び伝導障害は平成6年からのデータのため、3年分を平均すると平成7年からの表記となる

表 50 平成 27 年（岩手県のみ 3 年分）65 歳未満種別心疾患年齢調整死亡率高率順位（人口 10 万対）

高率順	1 位	2 位	3 位	4 位	その他の心疾患
全国	急性心筋梗塞 (3.6)	その他の 虚血性心疾患 (3.2)	不整脈及び 伝導障害 (2.3)	心不全 (2.0)	1.8
岩手	不整脈及び 伝導障害 (9.2)	急性心筋梗塞 (3.9)	心不全 (1.8)	その他の 虚血性心疾患 (1.0)	1.6
全国との差	6.9	0.3	-0.2	-2.2	-0.2

岩手県の種別別の平成 18 年（3 年分）の 65 歳未満の年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年（3 年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4 区分別に示す（表 51）。

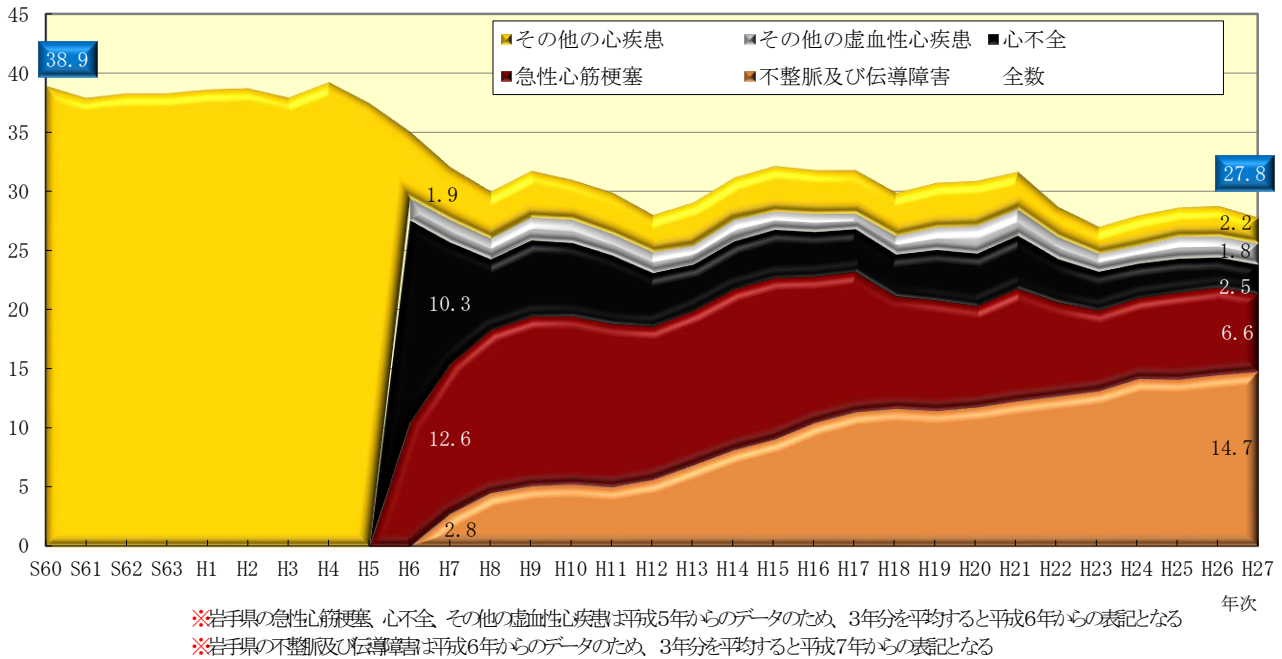
この 10 年余りで大きく増加しているのが不整脈及び伝導障害、大きく減少しているのは心不全及び急性心筋梗塞となっている。

表 51 65 歳未満種別心疾患－平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年年齢調整死亡率の割合

区 分	該当する種別心疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	不整脈及び伝導障害（125.6%）
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	—
大きく減少（80%未満）	心不全（71.3%）、急性心筋梗塞（65.5%）

次に、昭和 60 年（3 年分）から最新年（3 年分）までの岩手県の 65 歳未満**男性**の心疾患の種類別年齢調整死亡率の推移を示す（図 113）。

率（人口10万対） **図113 65歳未満種類別心疾患年齢調整死亡率（3年分）年次推移（岩手県-男性）**



さらに、最新年の 65 歳未満**男性**の種類別心疾患年齢調整死亡率（岩手県のみ 3 年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表 52）。

1 位は不整脈、2 位は急性心筋梗塞、3 位は心不全、4 位がその他の虚血性心疾患で全国とは順位が大きく異なっている。不整脈は全国の 4 倍強の高さとなっている一方、心不全及び 1 割程度全国より低く、その他の虚血性心疾患は全国の 1/3 程度となっている。

表 52 65 歳未満男性の平成 27 年（岩手県のみ 3 年分）種類別心疾患年齢調整死亡率高率順位（人口 10 万対）

高率順	1 位	2 位	3 位	4 位	その他の心疾患
全国	急性心筋梗塞 (6.1)	その他の 虚血性心疾患 (5.3)	不整脈及び 伝導障害 (3.6)	心不全 (2.9)	2.6
岩手	不整脈及び 伝導障害 (14.7)	急性心筋梗塞 (6.6)	心不全 (2.5)	その他の 虚血性心疾患 (1.8)	2.2
全国との差	11.1	0.5	-0.4	-3.5	-0.4

岩手県の種類別の平成 18 年（3 年分）の 65 歳未満**男性**の年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年（3 年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4 区分別に示す（表 53）。

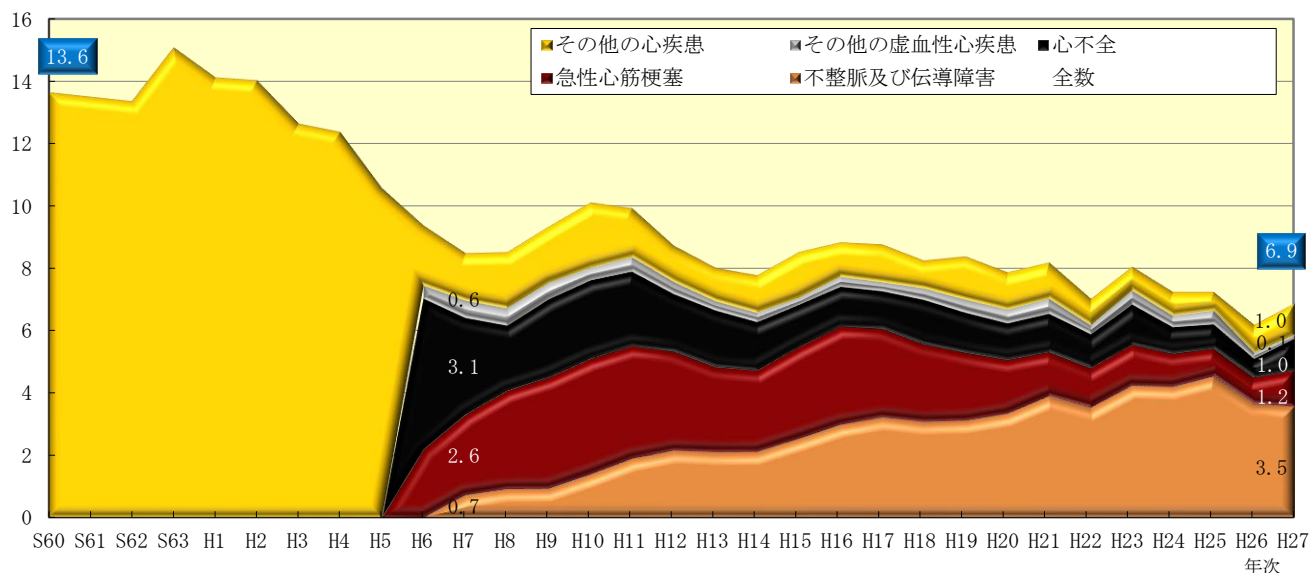
この 10 年余りで大きく増加しているのは不整脈及び伝導障害、大きく減少しているのは心不全及び急性心筋梗塞となっている。

表 53 65 歳未満男性の種類別心疾患－平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年年齢調整死亡率の割合

区 分	該当する種類別心疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	不整脈及び伝導障害（126.4%）
若干増加（110%以上 120%未満）	その他の虚血性心疾患（116.5%）
若干減少（80%以上 90%未満）	－
大きく減少（80%未満）	心不全（70.1%）、急性心筋梗塞（69.6%）

次に、昭和 60 年（3 年分）から最新年（3 年分）までの岩手県の 65 歳未満**女性**の心疾患の種類別年齢調整死亡率の推移を示す（図 114）。

率（人口10万対） **図114 65歳未満種類別心疾患年齢調整死亡率（3年分）年次推移（岩手県-女性）**



※岩手県の急性心筋梗塞、心不全、その他の虚血性心疾患は平成5年からのデータのため、3年分を平均すると平成6年からの表記となる
 ※岩手県の不整脈及び伝導障害は平成6年からのデータのため、3年分を平均すると平成7年からの表記となる

さらに、最新年の 65 歳未満**女性**の種類別心疾患年齢調整死亡率（岩手県のみ 3 年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表 54）。

1 位は不整脈、2 位は急性心筋梗塞、3 位は心不全、4 位がその他の虚血性心疾患で全国とは順位が大きく異なっている。不整脈は全国の 3 倍強の高さとなっている一方、心不全は 2 割程度全国より低く、その他の虚血性心疾患は全国の 1/10 程度となっている。

岩手県の種類別の平成 18 年（3 年分）の 65 歳未満**女性**の年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年（3 年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4 区分別に示す（表 55）。

女性は、この 10 年余りで、心不全、急性心筋梗塞及びその他の虚血性心疾患が大きく減少している。

表 54 65 歳未満女性の平成 27 年（岩手県のみ 3 年分）種類別心疾患年齢調整死亡率高率順位（人口 10 万対）

高率順	1 位	2 位	3 位	4 位	その他の心疾患
全国	心不全 (1.2)	急性心筋梗塞 (1.15)	その他の 虚血性心疾患 (1.12)	不整脈及び 伝導障害 (1.1)	1.0
岩手	不整脈及び 伝導障害 (3.5)	急性心筋梗塞 (1.2)	心不全 (1.0)	その他の 虚血性心疾患 (0.1)	1.0
全国との差	2.4	0.05	-0.2	-1.02	0

表 55 65 歳未満女性の種類別心疾患－平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年年齢調整死亡率の割合

区 分	該当する種類別心疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	－
若干増加（110%以上 120%未満）	不整脈及び伝導障害（116.2%）
若干減少（80%以上 90%未満）	－
大きく減少（80%未満）	心不全（71.8%）、急性心筋梗塞（46.8%）、その他の虚血性心疾患（27.6%）

3 保健所別心疾患死亡等の推移

平成 8 年から最新年までの約 20 年の保健所別の心疾患の死亡数を表 56 に示す。
年次により多少の増減はあるものの、すべての保健所管内で死亡数は増加している。

表 56 保健所別年次別心疾患死亡数（単位：人）

	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8 年 との差	H8 を 100 とした 際の H28 の割合
県央	496	531	661	771	829	753	794	762	845	349	170.4
中部	330	350	429	517	511	517	461	465	515	185	156.1
奥州	207	256	312	312	301	281	337	332	303	96	146.4
一関	232	253	300	353	338	342	356	350	377	145	162.5
大船渡	132	121	153	147	167	164	161	178	173	41	131.1
釜石	101	99	152	150	131	128	115	133	115	14	113.9
宮古	170	202	227	259	253	219	268	293	275	105	161.8
久慈	90	99	100	162	125	159	138	172	168	78	186.7
二戸	106	113	157	199	193	168	180	178	186	80	175.5
岩手県	1,864	2,024	2,491	2,870	2,848	2,731	2,810	2,863	2,957	1093	158.6

5 年刻み

次に、平成8年から最新年までの約20年の保健所別の心疾患の年齢調整死亡率を表57に示す。

年次により多少の増減はあるものの、宮古保健所管内、久慈保健所管内及び二戸保健所管内は横ばい、それ以外の保健所管内は減少している。

表57 保健所別年次別心疾患年齢調整死亡率(単年：人口10万対)

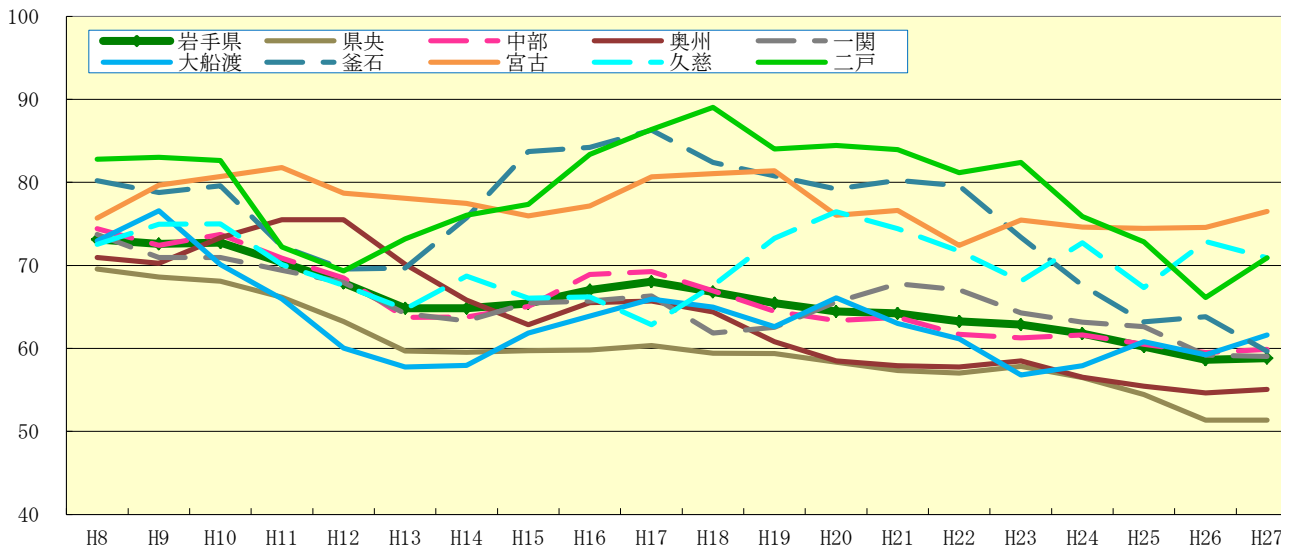
	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	71.9	61.3	60.2	58.4	59.4	51.9	52.2	49.9	51.9	-20.0	72.2
中部	74.0	64.1	65.9	60.9	61.7	62.6	57.4	58.4	64.0	-9.9	86.6
奥州	69.6	72.4	62.5	60.5	57.6	51.7	57.2	54.9	53.1	-16.5	76.3
一関	71.8	65.4	64.5	63.0	65.0	61.7	61.1	54.4	61.5	-10.3	85.6
大船渡	84.1	57.6	64.3	52.2	62.5	59.1	61.3	57.8	66.4	-17.8	78.9
釜石	76.6	68.7	85.6	74.3	60.3	68.3	61.2	61.8	55.1	-21.5	72.0
宮古	81.3	75.5	84.5	76.1	77.1	71.2	75.4	76.7	77.0	-4.2	94.8
久慈	75.6	68.5	60.4	78.0	60.0	80.6	61.6	76.6	74.6	-1.0	98.7
二戸	74.5	71.5	80.2	79.6	85.5	62.7	69.7	66.2	77.5	2.9	103.9
岩手県	73.8	65.6	67.0	63.5	62.8	59.3	58.7	57.7	60.1	-13.7	81.4

5年刻み

平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別の心疾患総数（図115）及び65歳未満（図116）の年齢調整死亡率の推移を示す。

図115 保健所別の心疾患の年齢調整死亡率（3年分）の推移

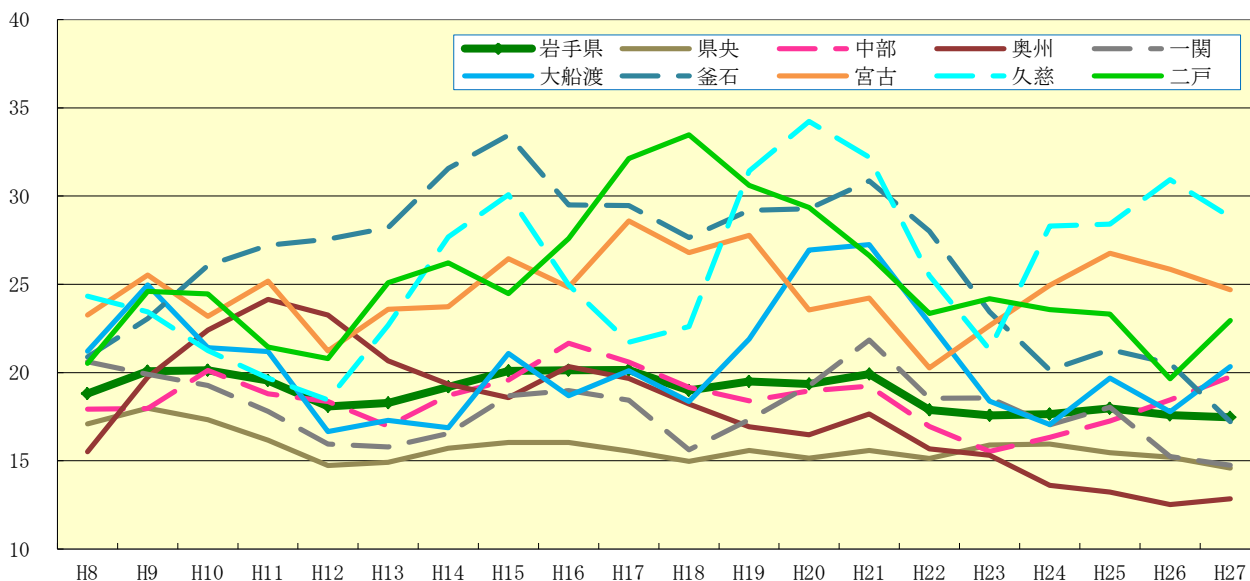
率(人口10万対)



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから40からの設定とした

率(人口10万対)

図116 保健所別の65歳未満心疾患の年齢調整死亡率（3年分）の推移



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから10からの設定とした

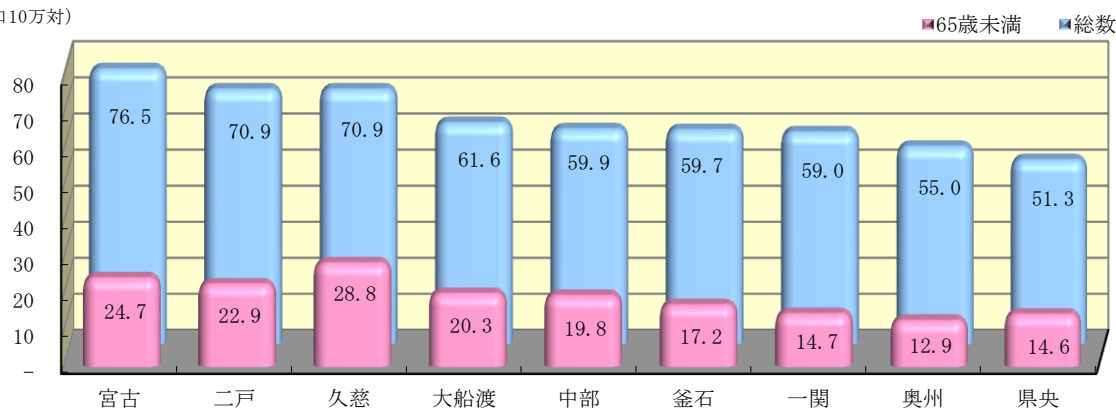
さらに、最新年（3年分）の心疾患総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図117）。

総数で最も高いのが宮古保健所管内であり、最も低い県央保健所管内とは25.2の差となっている。

65歳未満では久慈保健所管内が最も高く、最も低い奥州保健所管内とは15.9の差となっている。

図117 保健所別心疾患年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（3年分）

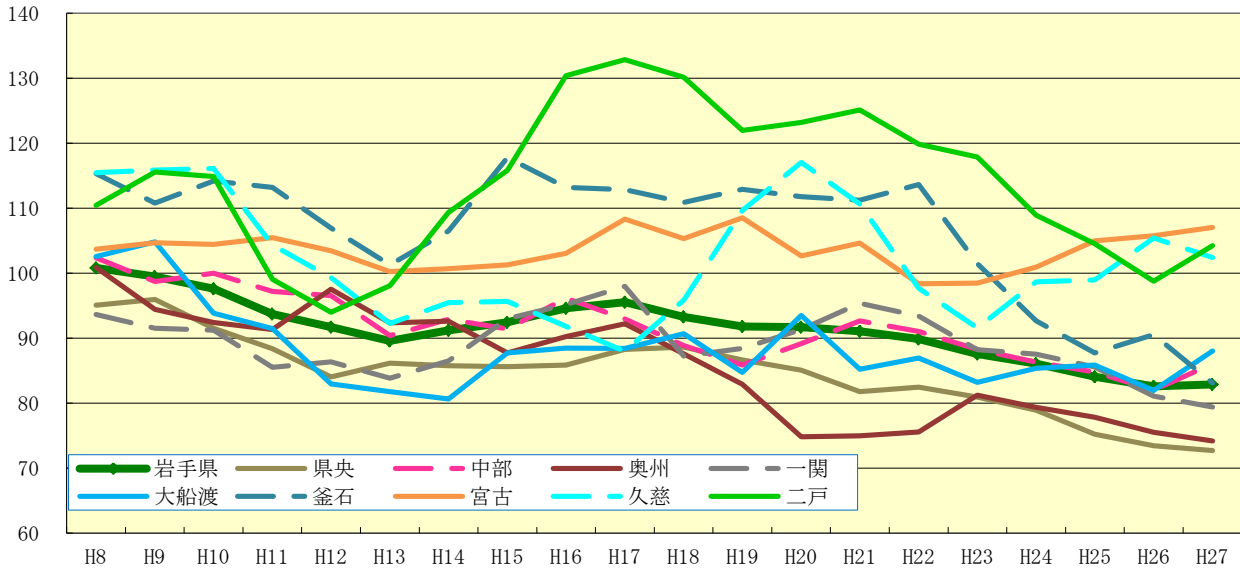
率(人口10万対)



次に、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**男性**の心疾患総数（図118）及び65歳未満（図119）の年齢調整死亡率の推移を示す。

率(人口10万対)

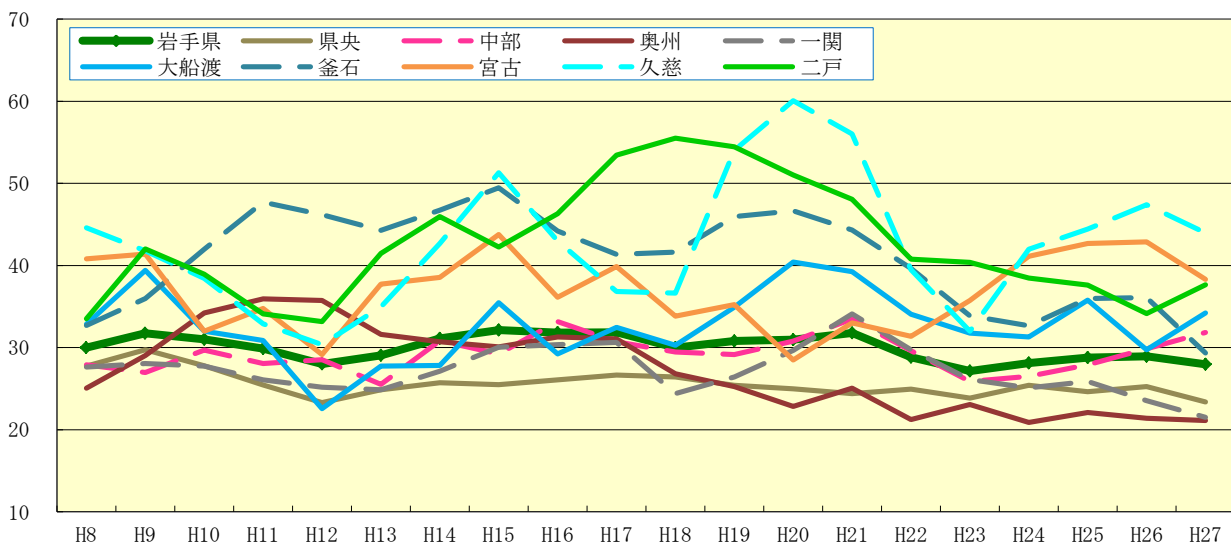
図118 保健所別の心疾患の年齢調整死亡率（3年分）の推移（男性）



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから60からの設定とした

率(人口10万対)

図119 保健所別の65歳未満心疾患の年齢調整死亡率（3年分）の推移（男性）



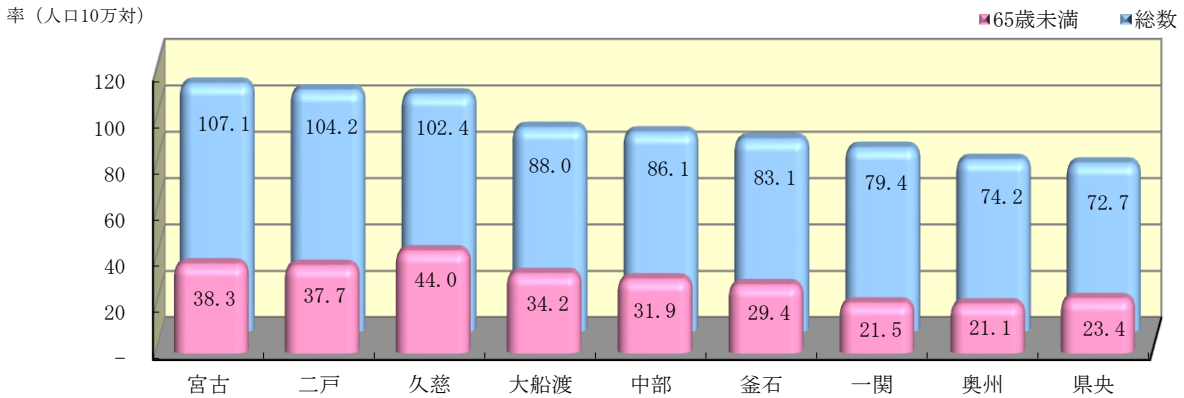
※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから10からの設定とした

さらに、最新年（3年分）の**男性**の心疾患総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図120）。

男性の総数で最も高いのが宮古保健所管内であり、最も低い県央保健所管内とは34.4の差となっている。

65歳未満では久慈保健所管内が最も高く、最も低い奥州保健所管内とは22.9の差となっている。

図120 保健所別心疾患年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（男性-3年分）



次に、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別女性[※]の心疾患総数（図121）及び65歳未満（図122）の年齢調整死亡率の推移を示す。

図121 保健所別の心疾患の年齢調整死亡率（3年分）の推移（女性）

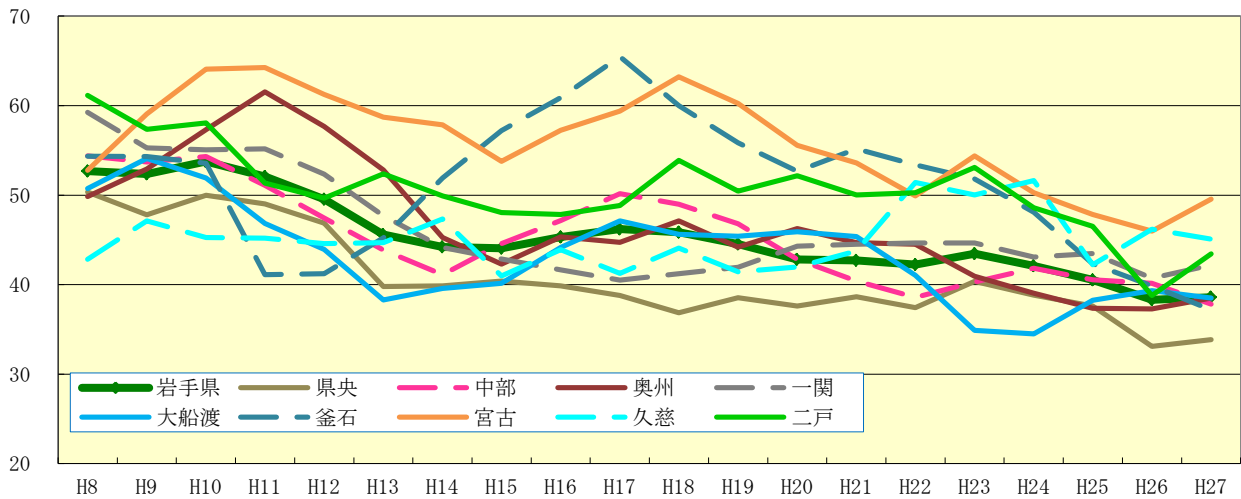
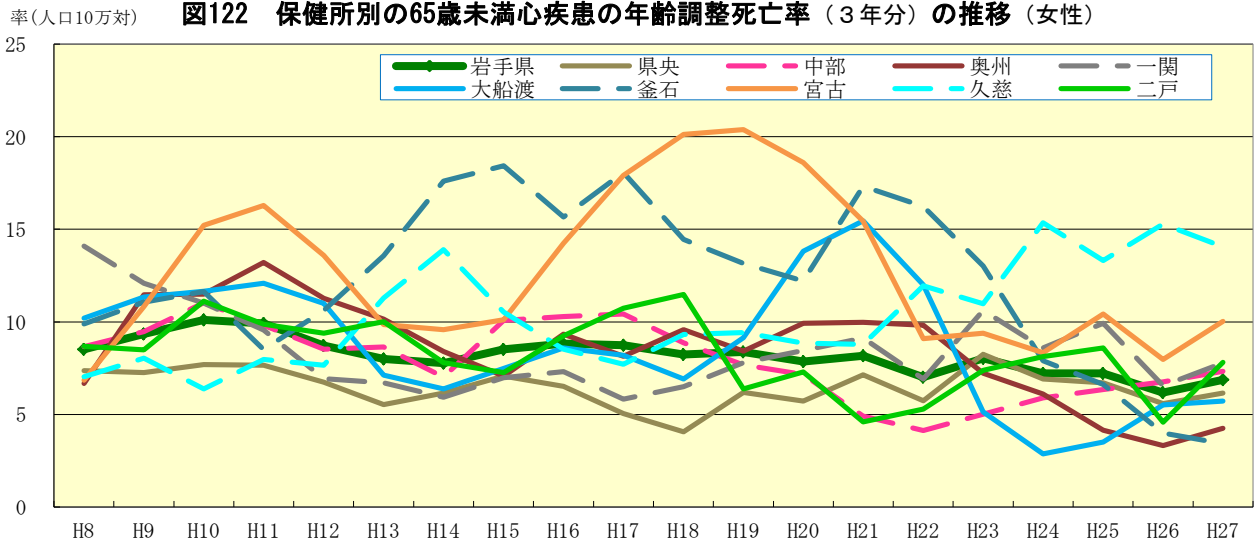


図122 保健所別の65歳未満心疾患の年齢調整死亡率（3年分）の推移（女性）



さらに、最新年（3年分）の**女性**の心疾患の総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図123）。

女性の総数で最も高いのが宮古保健所管内であり、最も低い県央保健所管内とは15.7の差となっている。

65歳未満では久慈保健所管内が最も高く、最も低い釜石保健所管内とは10.6の差となっている。

図123 保健所別心疾患年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（女性-3年分）

